

様式 4

学校番号 (小10) 学校名 (練馬区立開進第一小学校) 教科名 (音楽)

指導の配慮点		評価の観点			
		音楽への関心・意欲・態度を向上させるための手だて	音楽表現の創意工夫を向上させるための手だて	音楽表現の技能を向上させるための手だて	鑑賞の能力を向上させるための手だて
導入	<p>(授業規律) 持ち物の確認をする。</p> <p>(授業規律) 発声練習を通して、授業に向かう心構え・姿勢の徹底を図るとともに、音楽活動に進んで取り組めるような心情に持っていく。</p> <p>(教材提示) 具体的なめあてが持てるように本時の狙いを設定する。</p> <p>(自立解決の手立て) ねらいを達成するための個のめあてがスモールステップで持てるように方法と対策を提示する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・発声のすばらしさを具体的にほめる。 ・よりよい発声となっていく中で歌うことの気持ちのよさ・充実感を味わわせる。 ・気持ちが高揚するようにテンポよく授業を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子供自身がよさを感じ取れるように、具体的な表現でほめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・具体の評価基準を明確にしておく。 ・よりよい発生となるようにワンポイントアドバイスを繰り返し行う。 ・何がどのように良くなったのか、何をどうすればよくなるのかを具体的に伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の声・友達の声に耳を傾けるように常に声かけをする。 ・聴き比べにより発声の変化を聞きとらせる。
展開	<p>(学習カード) 本時のめあて・個人のめあてを記入させ、学習の見通しを持たせる。</p> <p>(授業形態) 個人練習・グループ練習を繰り返し行い相互評価をしていく中で、教えあい・学びあいのできる学習環境を作り、自力解決への意識を高める。</p> <p>(学習活動) 児童のめあて達成の具体的な姿を提示することで、子供同士が友達のめあて・グループのめあて・本時のめあてに即したアドバイスや声かけができるようにする。</p> <p>(評価) 児童の実態を技術面と態度面の両面から把握し、一単位時間の具体的評価基準を作成する。それに即した具体的な支援計画に基づき、個別指導・声かけをおこなう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人の到達度を把握し、ねらいに即した声かけを随時おこなう。 ・何のために活動をしているのか、何ができるようになればいいのかを明確にして、活動に取り組ませる。 ・児童のよさ(学習態度・技術面・発言)を全体に広める。 ・その場で分かりやすく具体的な評価をし個々の意欲を引き出す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・聴取・感受 言葉による表現・伝達 表現活動(身体表現・歌唱・演奏など)を繰り返しおこなう。 ・児童の活動中の美しい響きや音を聞き取り、即時そのよさを伝えていく。 ・児童の活動中の美しい響きや音を聞き取り、全体に広めていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の実態(学習態度・技術面)を把握し個別支援計画を作成する。 ・個別の到達度と目標を具体的にし、あと何をどうすればもう一歩前進できるのかを個別指導・学習カードで伝える。 ・正しい発声演奏、美しい発声・演奏など即時評価し全体に広める。 ・正しくできるようになった箇所に気付かせるよう随時声かけをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・鑑賞と表現の一体化をはかるため、聞く活動を多く取り入れる。 ・鑑賞のポイントを1つないし2つにしぼり、明確にする。 ・鑑賞のポイントを少しずつ変えながら、繰り返し何度も聞けるようにする。 ・児童の発言はどんな内容でも音楽的に補足しながら認めていく。
まとめ	<p>(学習活動) 個人・グループでの発表をし、本時のねらいに対する到達度を共有し合う。</p> <p>発言・話し合い・学習カードの記入を通して活動を振り返り、次時のめあてを持たせる。</p> <p>(評価) 学習カードに自己評価の欄を設け自己評価・相互評価を記入させることで、次時への意欲を持たせる。</p> <p>(授業構成) 本時のめあてが達成できたのかどうかを全体で確認し合い、次時につながる問題などを解決しながら次時のめあてを確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・簡単な自己評価や相互評価(友達のよさ)をおこない、きょうの学習を振り返る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・工夫した点を全体に広める。 ・友達の発表に対して、単に他のグループと聴き比べるのではなく、発表者が何をねらっていたのかを聞き取るように声かけをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分ができるようになったところを確認させ、次時のめあてを持たせる。 ・どのような練習が技術の向上につながったのか振り返らせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本時のねらいを確認し、甘藷のポイントを明確にする。 ・児童の発言はどんな内容でも音楽的に補足しながら認めていく。

指 導 の 配 慮 点 (授業規律・発問・板書・個別指導・ノート指導等)		評 価 の 観 点			
		関心・意欲・態度を向上させる た め の 手 だ て	思考・判断を向上させるための 手 だ て	表現・技能を向上させるための 手 だ て	鑑賞の能力を向上させるための 手 だ て
導入	(授業規律)挨拶をして入室するように指導する。 授業規律 話を聞くときは体ごと前に向けて聞くように指導する。 (板書) 題材名、めあてを板書し、見通しをもたせる。 (教材提示) 参考作品を提示したり写真を大型テレビで見たり、表現を実演したりして視覚的に分かりやすく説明する。	・児童が興味関心を抱くような、題材の提示を行う。 ・前時の活動を認め、活動に入る。	・考えや思いを言葉にしなが ら表現の実演を行う。 ・毎時間の授業の始めに5分 程度の発想の練習をする。 ・前時の画像を見て、よかつ た発想などを振り返ってから 始める。	・めあてや具体的な留意点、 安全指導などを確実に伝え るために表現の実演を行う。 ・前時の授業の様子を撮った 画像を見て、表現の工夫を思 い出してから活動を始めさ せる。	・友達の活動や作品の写真を もとに具体的な発想や工夫 を説明する。 ・表現や用具の使い方などの 掲示や画像を用いた説明を 行う。
展開	(安全指導) 道具の使い方を分かりやすく図解やポイントを絞った話し方などで工夫する。間違った使い方や、ふざけている児童には毅然とした態度で指導にあたる。 (机間指導) 表現したいことなど児童の考えや思いを聞き、表現について話し合うことで自分なりのこだわりをもてるようにする。 (指導隊形) 全体指導と個別指導を状況に応じて使い分けて指導していく。	・机間指導の際、個々の表現を認め、具体的によい面をほめる。 ・表現を紹介する時間をとりひとりひとりの表現を大切にし、認めていく。 ・互いの表現を鑑賞し合い、認め合う時間を設定する。	・児童の考えや思いをもとに表現の指導をする。 ・児童の表現や考えを紹介する時間を設定し、友達の表現や考えに対する関心を高め、思考を促す。	・児童の表現の工夫を紹介し、表現の試行錯誤を促す。 ・うまく表現できない児童については、個別指導を行う。 ・何を学んでいるかを明確にし、活動に取り組ませる。	・必要に応じて美術作品などを鑑賞する時間を設定する。
まとめ	(評価) 自己評価・相互評価などを取り入れる。 (授業構成) 本日の課題が達成できたかを確認させる。 (次時への見通し) 次時の展開を説明し、進捗の確認をするとともに遅れ気味の児童には直接話して対応する。	・まとめ段階では、再度、めあての確認を行い、自己評価、相互評価を取り入れ学習の振り返りを行わせる。	・名札に自分の考えや思いを書かせ、表現における思考や判断を意識するように指導する。 ・本時の様子を写真で振り返り、よかつた発想などを振り返ってまとめる。	・多様な表現を評価するとともに、試行錯誤する活動に対する評価も行い、自分なりに表現を迫及する活動を促す。 ・本時の様子を写真で振り返り、表現の工夫を思い出してから活動を始めさせる。	・友達の表現や作品を鑑賞する時間を設定するとともに、感じたことを伝えたり、話し合ったりする。

学校番号 (小 1 0)

学校名 (練馬区立開進第一小学校)

教科名 (家庭科)

指 導 の 配 慮 点 (授業規律・発問・板書・個別指導・ノート指導等)		評 価 の 観 点			
		関心・意欲・態度を向上させるための手立て	思考・判断を向上させるための手立て	表現・技術を向上させるための手立て	知識・理解を向上させるための手立て
導入	<ul style="list-style-type: none"> ・チャイム着席を徹底する。 ・本時の単元名とねらいを板書し、課題をつかませる。 ・教師の模範は、3 グループに分け全員が見えるようにする。(自分のグループになるまでの待つ姿勢を指導する。) ・児童の気持ちをひきつけるような効果的な教材を提示し工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・導入には身近な課題を提示する。 ・模範をする場合は、基本のやり方を示し、気品的な技能を習得するまでは徹底する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な生活の中で体験していることを結びつけて考えるようにする。 ・出来上がり図を見ながら予想させ、見通しをもたせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートには、役割分担・作り方の手順など詳細にまとめておく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・覚えなければならぬ用語などは、板書・ワークシートを活用し指導する。 ・必要に応じて実技テスト・ペーパーテストをし、基礎基本の定着を図る。
展開	<ul style="list-style-type: none"> ・実技に対する予想を立てる。(自分の考えをもたせる。) 日常生活の体験や、前時までの学習を通して既習事項 (教科書参考) を思い出して書くように指導する。 ・教師が論点を整理し、話し合いなどで互いの考えを交流する場を設定する。 ・実習や作品を作成する時は、実習の計画書等を書かせ、見通しをもたせるようにする。 ・実習する時間を事前に板書をして知らせ実習する時間を明示しておく。実習に入る前に安全指導を行う。 ・器具の操作、実習の方法・手順が正しく出来てない場合は、実習をやめさせその都度もう一度確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の考えのよさを教師が認め、意見を発表しやすくする。 ・自分の考えで、実習したり、作品を作成したりする活動に取り組ませ、主体的に学ぶ意欲をもたせるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・作業していく上で、見通しをもたせながら、その都度 (なるべく全員に) 声をかける。 ・実習結果から、前時までの学習や生活体験を思い出させるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・正しく器具を扱っている児童を評価し紹介する。 ・よく書けている児童のワークシートを紹介していく。 ・実習は、班で協力してできるように役割分担をさせる。 ・実習の経過・結果等がどうだったか考えさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・知識を獲得するためのワークシートやまとのテストを行う時期を工夫する。 ・実習結果から得た知識や理解をワークシートを使い確認する。 ・知識・理解は、実習の結果得るものであることを考えて、指導にあたる。

<p>まとめ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・実習の結果をワークシートに記入させる。 ・わーうシートのまとめには、反省や気がついたことなど、次時につながることを書く。 ・簡単な自己評価や友達への相互評価も取り入れる。 ・次時につながる疑問がある場合は、まとめの段階で発表させておく。 ・最後に、今日の実習が予定通り実施できたのか確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・まとめの段階では、安全に気をつけて、班の人達と協力して、実習できたか言葉かけをする。 ・簡単な自己評価や友達への相互評価も取り入れ、今日の学習を振り返る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・まとめが書けない児童には、「気がついたこと」「感じたこと」のどれかが書けるよう声かけする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・班の人と協力して実習していた班をほめ、みんなと協力してできた喜びを実感させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実習したことのまとめとして、反省と感想を書く。次回の授業に生かせるよう指導する。 ・家庭でも実践できるよう言葉かけをし、知識・理解の獲得を図る。
------------	---	---	--	--	--

指 導 の 配 慮 点 (授業規律・発問・板書・個別指導・ノート指導等)		評 価 の 観 点			
		関心・意欲・態度を向上させるための手 だて	思考・判断を向上させるため の手だて	表現・技能を向上させるための手 だて	知識・理解を向上させるため の手だて
導入	<ul style="list-style-type: none"> ・(授業規律) 教師の合図ですぐ集合できるように、児童に繰り返し指導をし、学習規律を確立する。 ・(授業規律) 安全に運動できるように服装を整えさせる。 ・(教材提示) 本時の単元名とねらいを伝え、児童に課題をつかませる。個人のめあてを確認する。 ・(安全指導) 安全に学習できるようルールを確認する。 ・(授業規律) 全員で協力して準備できるよう、準備の方法を明示しておく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個人のめあてを明確にさせる。 ・視聴覚教材の工夫をする。 ・安全に準備している児童をほめ、できていない児童には助言を与える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・めあてを達成させるための練習方法が適切であるかなどを確認し、見通しをもたせるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・めあてが具体的であるかを確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・技を図示したものを拡大し、提示しながら技のポイントを伝える。
展開	<ul style="list-style-type: none"> ・(安全指導) 主運動につながるような準備運動をさせる。 ・(授業構成) 児童が今もっている力で楽しめる運動をさせる。 ・(教材提示) 教師の模範は、全員が見えるように一箇所に集合させる。 ・(授業構成) 新しい技や、自分の記録に挑戦させる。 ・(教え合い指導) 運動している児童だけでなく、観察している児童にも運動のポイントを教え、児童同士が教え合えるようにする。 ・(個別指導) 学習カードから前時にめあてを達成できなかった児童や、ポイントがわからない児童に個別指導をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今もっている力で楽しむ時には、全員ができる運動を必ず入れる。 ・進んで練習したり、友達のよい点を見つけようとしていたりしている児童をほめる。 ・安全に運動しているか確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・技を身に付けるための適切な場や練習の仕方を工夫しているか確認し、助言する。 ・友達の運動を観察させ、よい点や課題点を見つけさせる。 ・自己の能力に適した技を選んで取り組むようにさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・主運動につながるような準備運動を取り入れる。 ・技を身に付けるためのいろいろな場を設定する。 ・運動する場を多く用意し、全員がたくさん練習できるようにする。 ・擬音語や擬態語を使い、運動の感覚を伝える。 ・上手な児童に模範演技をさせ、全員に見せながら技のポイントを伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・技を身に付けるためのポイントが図示してある学習資料をたくさん用意し、練習している児童がすぐ見られるようにする。
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・(学習カード指導) 簡単な自己評価や友達への相互評価(友達のよさ) も取り入れる。 ・(授業構成) 自分や友達のよさを発表させ、課題が達成できたか確認する。 ・(授業構成) ルールの再確認などがある場合は、まとめの段階で発表させておく。 ・(授業規律) 全員で協力して片付けできるよう、片付けの方法を明示しておく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・簡単な自己評価や友達への相互評価(友達のよさ) も取り入れ、今日の学習を振り返るようにする。 ・進んで練習したり、友達のよい点を見つけようとしていたりしている児童を紹介し、学級に広げていく。 ・安全に片付けしている児童をほめ、できていない児童には助言を与える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・友達のよい点を見つけられた児童をほめ、友達のよい点を見つけることで自分も伸びることを確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・めあてが達成できたかを確認して、達成できていた児童をほめる。達成できなかった児童には、ポイントなどの助言を与え、次時で個別指導をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・技のポイントが理解できたか確認する。

様式 4

学校番号 (小10) 学校名 (練馬区立開進第一小学校) 教科名 (外国語)

指導の配慮点 (授業規律・発問・板書・個別指導・ノート指導等)		評価の観点			
		関心・意欲・態度を向上させるための手だて	思考・判断を向上させるための手だて	表現・技能を向上させるための手だて	知識・理解を向上させるための手だて
導入	<p><授業規律></p> <ul style="list-style-type: none"> ・教室に入ったら挨拶をすることや、授業中の話の聞き方を説明する。 <p><発問・活動></p> <ul style="list-style-type: none"> ・挨拶「Hi.How are you?」 ・今日の気分、天気、曜日等「I'm good thank you.」 <p><個別指導></p> <ul style="list-style-type: none"> ・困っている児童の近くでALTの質問の手助けをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今まで学習したことを思い出せるようにジェスチャーを交えながら指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今日の気分を選択肢の中から自分で選べるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・英語を発音するときに自分の気持ちを込められるように、日々の学習で表現させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・掲示物を利用しながら繰り返し言葉に慣れるようにしていく。
展開	<p><活動></p> <ul style="list-style-type: none"> ・1～20, 30, 40, 50, 100までの大きな数字の言い方、書き方を知り発音する。 <p>100 : one hundred 1000 : one thousand 1000000 : one million 450 : four hundred fifty</p> <p>様々な数字を習った単語を使って発音してみる。</p> <p><グループ活動></p> <ul style="list-style-type: none"> ・1～7グループに分かれて、ディスカッションする。 <p>* コインやお札にかかっている情報を読み取る。</p> <p>Group Discussion どこの国の物か お金の値段 日本円との違い</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・数字を英語で発音する際に、場面によって使い方が違うことを知ること、興味関心がもてるようにする。 ・他の国のコインやお札にかかっている情報を読み取り、どのように伝えるかを考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・数字を発音することで、次にくる数字の発音を考えられるようにする。 ・コインやお札を見て、どの国の物なのかを想像する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・大きな声で発音できるように、かかわる場を多くつくる。 ・グループディスカッションに向けて練習する際、発表に必要な情報を明確にさせておく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基本となる言葉、変化していく言葉の違いを理解し、使い分けできるようにしていく。 ・発表に必要な情報を取り入れ、発していくことができる。
まとめ	<p><振り返り></p> <ul style="list-style-type: none"> ・英語での数字(お金)の言い方を振り返り、身近に感じられるようにする。 <p><評価></p> <ul style="list-style-type: none"> ・本時を振りかえることにより、自己評価をしっかりと取り入れる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今日行った授業について、実際に使う場面を想定できるようにする。 		<ul style="list-style-type: none"> ・今日学習した言葉を発音する。 	